



なつかしい日々

2023 3/31(金)～10/9(月・祝)

秦野市立 宮永岳彦記念美術館

開館時間 | 10:00～19:00
(入館は18:30まで)

休館日 | 月曜日(祝日の場合は翌日)
12月28日～1月2日

主催 | 秦野市

観覧料 | 一般300円
(隣接する「弘法の里湯」をご利用の方は200円)

高校生以下、障害者手帳をお持ちの方と介護の方1名は無料

協力 | ペンてる株式会社 小田急電鉄株式会社

なつかしい日々

2023 3/31(金)～10/9(月・祝)

子どもの頃、幼児雑誌や絵本で目にした童画は誰によって描かれたのか、我々はあまり知ることはありません。しかし、幼い時に心を奪われた絵本の挿絵は大人になった今でもなつかしい記憶を彩ります。童画とは、そんな心に触れる温もりを思い出させてくれるものではないでしょうか。

グラフィックデザイナー、洋画家として活躍していた宮永岳彦(1919～1978)は、子ども向けの雑誌やカレンダー、ポスターに多くの童画を描きました。水彩、油彩、水墨と宮永の持ち得る技法が惜しみなく使われた多彩な作品からは優れた技量やセンスが感じられます。宮永自身が心から楽しく描いていたという童画は、愛くるしく楽しそうでどこかユーモラスです。

「光と影の華麗なる世界」と呼ばれる美人画の世界を確立した宮永が、一方で生涯描き続けた童画。本展では宮永岳彦が子どもに向けて描いた作品、子どもたちを描いた作品を展示します。たくさんの童画に触れていたなつかしい日々を思い出しながら、宮永岳彦の童画の世界をお楽しみください。



《聖(ベラスケス「王女マルガリータ」想)》
油彩画 100F 1983年



《舞妓》水墨画 1971年



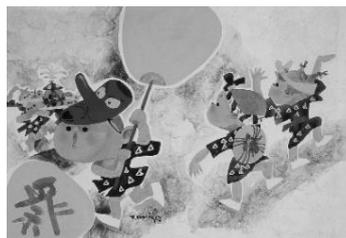
ぺんてるくれよんパッケージ原画
制作年不明



童画 制作年不明



チャイルドブック表紙原画
1966年



童画 制作年不明



《鴻》油彩画 100F 1979年

表 童画 制作年不明

宮永岳彦(1919～1987)

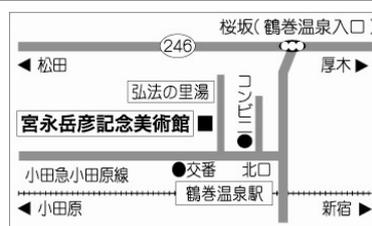


「光と影の華麗なる世界」と称される美人画で知られる宮永岳彦は、父親の転勤のため静岡県磐田郡(現在の磐田市)で生まれ、名古屋市立工芸学校に学びました。2度の兵役後、実家のある秦野に帰り、松坂屋百貨店銀座店宣伝部に勤務しながら、昭和21年から15年間、秦野市名古屋のアトリエで創作活動を続けました。二紀会の設立に参加、昭和54年には日本芸術院賞を受賞、昭和61年には二紀会理事長に就任。油彩画をはじめ、ポスター、童画、表紙画、挿絵、水墨画など多彩な作品を残しました。

秦野市立 宮永岳彦記念美術館

〒257-0001 神奈川県秦野市鶴巻北3-1-2
TEL/FAX 0463-78-9100

《隣接》公営日帰り温泉 弘法の里湯 TEL 0463-69-2641



美術館へのアクセス

- ◆ 小田急線 鶴巻温泉駅から徒歩2分
- ◆ 駐車場 弘法の里湯と共用
40台 / 1時間150円
以降30分ごとに100円